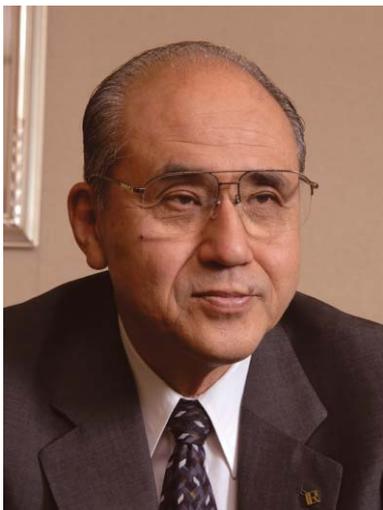


# 研究年報／2008年版の発刊にあたって



電力中央研究所理事長  
白土 良一

2008年7月に洞爺湖サミットが開催され、地球環境問題にも大きな注目が集まり、温室効果ガスの排出量削減は、電力業界においても重要な課題となっております。一方で、燃料高騰の状況下におけるエネルギーの安定供給も喫緊の課題となっております。このような状況の中で、電力中央研究所は、「エネルギーセキュリティの確保」と「地球環境問題への対応」をミッションとして、将来の電力供給の姿を想定しつつ、エネルギー関連の各分野にわたる総合研究機関として研究活動を行っております。

平成19年度は、主要な研究プロジェクトとして、原子力技術、先進保守技術、環境革新技術、最適エネルギー利用技術、社会・経済リスクマネジメントを“五本の柱”とし、現場のニーズに応えるべく活動を推進しております。また、平成19年度は当所の総合力を発揮するために、総括プロジェクトおよび横断プロジェクトにより、分野横断的な研究推進体制を強化し、軽水炉高経年化研究や地球温暖化研究などにとりくんでまいりました。

今般、平成19年度の主要な研究成果を中心に研究年報を取りまとめました。ご高覧をいただき、当研究所の活動についてより一層のご理解をいただくとともに、ご意見を頂戴できれば幸いに存じます。